

せんだい普及センターだより VOL.66

(平成29年11月17日発行)

BLOSSOM

BLOSSOMとは農家の皆さんと普及センターが  
協同し美しい花を咲かせるよう、また実りあるもの  
となるよう願いを込めて名付けました。

宮城県仙台農業改良普及センター

(宮城県仙台地方振興事務所農業振興部)

〒981-8505

仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320 (地域農業班)

022-275-8410 (先進技術第一班)

022-275-8374 (先進技術第二班)

FAX 022-275-0296 (部共通)

E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>

～仙台市西部地域農業活性化推進会議を開催いたしました～

## 「中山間地域の活性化に向けて」

今年の稲作は、8月の低温・日照不足等の影響で登熟が進まず、国が発表した作況指数(9月15日現在)は、宮城県において100の「平年並」となっております。また、9月に仙台市で開催されました全国和牛能力共進会においては、大和町の農業者の出品もあり、大いに盛り上がり、総合で4位という成績を上げ、畜産のさらなる活性化が期待されるところです。

一方、担い手の減少や高齢化の進展など、農業を取り巻く環境が厳しい状況の中、特に鳥獣被害の増加や耕作放棄地の増加などが見られる中山間地域の振興についても、県としても大きな柱として取り組むことしております。

このことを踏まえ、今年度、仙台市西部地域の農業・農村の活性化に向けた会議等を開催し、将来の方向性や可能性を模索していこうという活動をしていきます。地域の若い農業の担い手に参加していただき、それぞれの地域の自慢や将来の夢、それに向けた取組など、提案してもらうほか、地域へのアンケートと分析を行い、ワークショップを実施しながら、地域の皆さんの思いが詰まった仙台市西部地域の活性化の方向性が見い出せればと考えております。

普及センターでは、「みやぎ食と農の県民条例基本計画」に掲げる「農業を若者があこがれる魅力ある産業」とするため、沿岸部の震災後の復興はもちろんですが、中山間地域の活性化にも力を入れながら、普及活動を展開してまいります。

仙台農業改良普及センター 農業普及指導専門監 井上眞弘

～一人一人の安全意識と周囲からの「声かけ」から始まる農作業の事故防止～

# 特集 プロジェクト課題の進捗状況

普及センターのプロジェクト課題で今年度終了予定の3課題について進捗状況をお伝えします

## 曲がりねぎ販売1億円を目指す指定産地の育成

JAあさひなねぎ部会では「曲がりねぎ」の販売額1億円を目指して作付け拡大に取り組んでいますが、一方で、高齢化や連作障害の発生が問題となっています。そこで、普及センターでは平成27年度よりプロジェクト課題を立ち上げ、JAあさひなと連携して生産拡大及び産地維持体制整備の支援を行っています。

プロジェクトでは①作付の拡大、②持続可能な産地とする「土づくり・病害虫対策」、③品質の向上及び均一化のための「品種比較」の3項目を柱として活動しています。①では、生産組織等への作付誘導を図るため、曲がりねぎの経営収支試算表と栽培技術体系を示した提案書を作成しました。今後はJAの作成した栽培推進計画に基づきJAと連携して生産組織への導入を働きかけていきます。また、高齢者でも曲がりねぎが生産できるように、従来の「施設やとい」に比べて作業時間を省略できる「露地やとい」を提案、早期出荷も可能となり導入されることとなりました。②では土壌診断に基づいた施肥管理や輪作の支援、農業展示ほ設置による新規農業の防除効果等の情報提供を行いました。③では、曲がりねぎに適した推奨品種を決定するため、新たな3品種について品種比較ほを設置し、生育調査を行っています。収穫時には部会員で食味官能検査を行い、各品種を評価してもらう予定です。

今後もJAあさひなと連携し、目標達成に向けて曲がりねぎの生産振興を進めていきます。



普及活動検討会での発表の様子



現地検討会の様子

## 集落営農100ha法人の鉄人化計画の推進

対象の（農）井土生産組合では、水稻の省力化をねらい乾田直播栽培を導入しています。乾田直播は2年前から始めていて、安定した収量の確保と技術の定着に向け、普及センターでは技術の開発元である（国研）東北農業研究センターとともに指導を進めてきました。

直播栽培技術は移植栽培と違い、水田に種籾を直播きするので、稲作の春季作業を省力化できます。導入初年は除草剤の散布時期を誤り、稲の出芽不良により収量を大幅に下げてしまいました。平成28年は組合員と失敗を振り返り、時期ごとの作業を確認しながら技術定着を進め、480kg/10aまで引き上げることができました。今年は8月の長雨の影響が気になりましたが、その影響は小さく、組合の移植栽培と同等（540kg/10a）の収量が見込まれ、技術の定着が図られました。

この技術の導入により、組合では立ちねぎの定植作業に労働力を振り分けることが可能となりました。また、空いた育苗ハウスを活用してミニトマトも導入しました。このように、園芸品目との複合経営を目指す農業法人には、乾田直播栽培の導入が有効です。

普及センターでは、安定した複合経営を目指し、今後も全力で支援していきます。



4月のグレンドリルによる播種の様子

## 就農計画の早期達成による新規就農者の定着支援

管内で近年増加している新規就農者の経営安定に向けて、県や市町村による計画認定を受けている新規就農者や青年就農給付金を受給している就農者を対象とし、生産技術向上、資質向上、経営能力向上の3つを柱に支援を行っております。

生産技術向上については、個別巡回指導を中心に、病害防除に関する基礎講座等も開催しました。今年の夏は雨の日が多く、対象の皆様は管理作業に苦労されていましたが、排水対策等積極的に取り組んでいました。

資質向上としては、みやぎ農業未来塾により県内の先進農家や農業・園芸総合研究所への視察研修会を開催し、先進事例や試験研究の概要を学ぶとともに、農業者同士のネットワークづくりを図りました。

今後は経営能力の向上を図るため、1月から経営管理講座を開催し、個別に帳簿の管理やパソコンでの記帳等について指導を行う計画です。

引き続き、新規就農者が早期に就農計画の目標が達成できるよう支援していきます。



現地指導の様子

## トピックス

## 「だて正夢」の現況報告

平成28年3月に県奨励品種に指定された「だて正夢」は、古川農業試験場が育成したアミロース含有率10%程度の低アミロース米で、“もちり”した粘りの強さと食味の良さが特徴の極良食味新品種です。平成30年秋の本格デビューに向けて、本年度は管内では約6ha（県内で約50ha）へ試験的に作付けされており、収穫されたお米はプレデビュー発表会の他、PRイベントで使用されます。

大郷町に設置した展示ほ場の「だて正夢」の生育は、周辺の「ひとめぼれ」と比べて葉色は濃く、茎数が少なめに推移していました。仙台普及センターで調査したデータは今後、他の普及センターの調査データとともに古川農業試験場に集約され、来年度までに作成される栽培管理マニュアルに活用されます。

## 表 主要な栽培特性

	だて正夢	ひとめぼれ
出穂期	8月5日	8月4日
成熟期	9月20日	9月17日
稈長	83.4cm	81.9cm
穂長	18.6cm	18.0cm
穂数	429本/㎡	537本/㎡
収量	58.6kg/10a	60.1kg/10a
千粒重	20.2g	22.4g

注)古川農業試験場における平成24～27年の調査データ

## イノシシ対策・・・集落ぐるみの取組を！

近年、仙台圏域でも有害鳥獣、特にイノシシの被害が拡大しており、今年度は管内9市町村で宮城県鳥獣被害防止総合支援事業等により箱わな等の導入や見まわり活動、侵入防止柵の設置が行われています。管内の集落ぐるみの鳥獣被害対策のモデル地区では、集落住民がイノシシ対策に関する勉強会や集落点検を実施し、侵入防止柵の設置ルートを検討の上、電気柵3km強を設置しました。

有害鳥獣対策は、「①放置果樹・野菜屑などの誘引物（餌）の除去」→「②侵入防止柵により田畑を効果的に囲う」→「③箱わな等による適切な捕獲」の総合的な対策が必要で、どれをとっても農家個々の対応では限界があり、集落一体となつての取組が必要です。まずは、集落内での意識統一、合意形成から始めてみましょう。



地域住民による電気柵設置作業

## がんばっています～新規就農者 郷家昌子 氏（富谷市 野菜）～

郷家さんは、富谷市内で指導農業士をはじめ関係各位のご指導を受けながら研修し、この春、富谷市内に農地を確保し、露地野菜を経営の中心として就農しました。いつしか自分の生き方を見つめなおし食の大切さを実感し「農業を生きる生業にしたい」と決意を固め就農しました。

今後は産直販売をメインに、農協出荷も予定しています。また、富谷市の行事にも積極的に参加し地域の発展にも貢献したいと考えています。将来は女性が活躍できる農業のあり方を考え、女性の活躍の場を農業で広げたいと思っています。



## ご紹介します～新任 指導農業士 小田嶋晃治 氏（露地野菜）～

小田嶋さんは、仙台市太白区で、栽培が難しいサボイキャベツなど西洋野菜を品目に取り入れながら、市場や消費の動向を踏まえた農業経営を実践しています。JA仙台の青年部では中田支部長、野菜部会では副部会長として活躍されています。

地域では、新規就農者への技術的な支援だけでなく、地元保育園に野菜づくりの指導に出向くなど、農業を通じて地域の住民との交流活動も積極的に行っています。



## ～お知らせ～

## 入賞おめでとうございます！

## ～平成29年度宮城県農林産物品評会・花き品評会～

平成29年10月14～15日、みやぎまるごとフェスティバル2017の一環として、平成29年度宮城県農林産物品評会と花き品評会が開催されました。

会場となった県庁1階ロビーには、出品された水稻うるち玄米113点、果実71点、野菜115点、林産物40点(農林産物品評会計339点)、切り花類91点、鉢物類43点、花壇用苗物類55点(花き品評会計189点)が展示され、多くの来場者で賑わいました。

今年は天候不順が続いたにもかかわらず、県内各地域から品質の高い農林産物が出品され、当普及センター管内からは以下の方々が入賞されました。おめでとうございます。

部門	品目名	受賞者氏名(敬称略)	市町村	受賞名
野菜(果菜類)	トマト	伊藤 政幸	多賀城市	宮城県知事賞3等
花き	シクラメン	後藤 和人	仙台市	金賞 仙台市長賞
花き	宿根かすみ草	八鍬 光	大衡村	銀賞
花き	トルコギキョウ	仙台たんの農園	仙台市	銀賞
花き	キンギョソウ	遠藤 光浩	多賀城市	銀賞
花き	ビオラ	佐藤 敏充	多賀城市	銀賞



表彰式での後藤和人さんと金賞を獲得したシクラメン



トマト(伊藤政幸さん)



写真：左から  
宿根かすみ草(八鍬光さん)  
トルコギキョウ(仙台たんの農園)  
キンギョソウ(遠藤光浩さん)  
ビオラ(佐藤敏充さん)

## パソコン農業簿記を活用した経営管理講座について

普及センターでは、パソコン農業簿記を活用して経営管理に取り組む農業者の皆様への支援を行っています。入力の方法から決算処理、決算書を用いた経営分析などについてアドバイスいたします。

効果的な簿記活用について一緒に取り組みましょう！日時、場所については下記のとおりです。

参加を希望される場合は、電話で事前にお申し込みください。

日 時：平成29年12月から平成30年3月の第1、第3水曜日  
(※3月は第1水曜日のみ)

時 間：午後1時から4時まで

場 所：仙台農業改良普及センター  
オープンラボ(宮城県仙台合同庁舎4階)

持ち物：農業会計ソフト、パソコンなど

【申込先】

電話 022-275-8374 (先進技術第二班 高橋、小田中)



昨年度の講座の様子

この印刷物は1,000部発行し、1部あたりの費用は31円です。